

アメリカ合衆国を学ぶ理由・目的

- ・世界の中での政治・経済的プレゼンスの大きさ
- ・日本との浅からぬ関係
- ⇒ 多くの教科書でとりあげられ、大学入試で出題頻度が高い

- ・20世紀以降の産業技術と生活文化の大半を創出したのはアメリカ。
- ・好き嫌いかかわらず、20世紀以降の「近代化」とは「アメリカ化」のこと

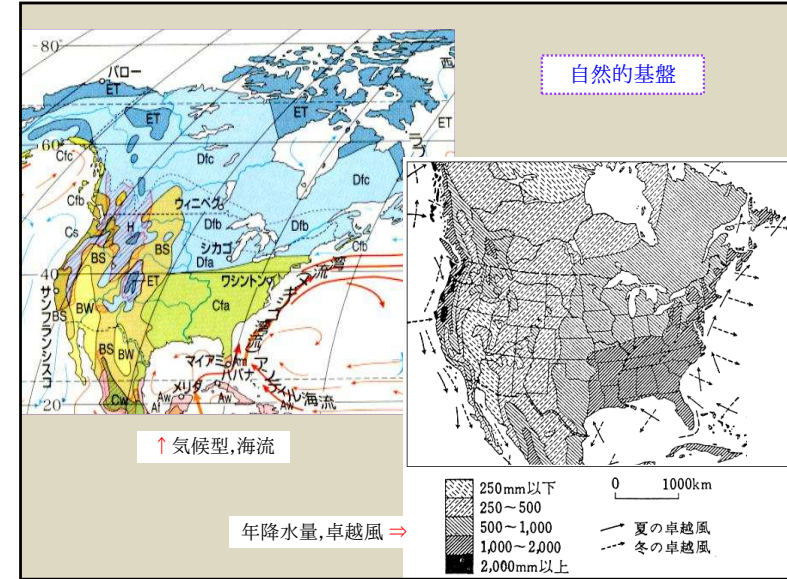
＜アメリカ地誌の目標＞

- ①「アメリカ」の国づくりは、どんな理念と実践から生まれ、それはどのような国土景観の形成につながったか。その具体像を理解すること。
- ② それを通して、世界の他地域や自国・自地域の「地域性」への関心を開かせる。
- ③ 地域性の描出に主に用いられる「地理学」の見方や方法について理解を深める。

アメリカの特殊性と普遍性

- ・世界の先進地域の代表としてアメリカを取り上げる。
- ・しかしアメリカは、先進地域としては典型でも、その国土形成のプロセスや景観の特性は、「旧大陸」の諸国とはもちろん、他の「新世界」=旧植民地の諸地域とも異なった性格を持つ。

…それは何か？



1. 植民地形成の3類型

(a) 土着システム搾取型

- ・インド, 東南アジア... 熱帯農産物資源を求めて進出。その際、土着の社会的・文化的な支配システムが既にあったため、その上層部をコントロールすることにより、富を宗主国に収奪。
- ... 間接支配・分割統治

b) 征服・略奪型

- ・中南米... 金銀・有用鉱物を求めて進出。その際、現地の文化をキリスト教的倫理に反する「野蛮」なものとして根こそぎ破壊し、その支配者層を虐殺。
- ・一部の特権階級を頂点とする格差社会
- ・現地人、強制移住させられたアフリカ人等との混血を通して形成された多文化・多民族の「るつぼ」的融合社会

(c) 未開地占拠型

- ・北アメリカにおいては、先住民の統一的社会機構は存在せず、
- ・生産段階も狩猟採集と初歩的農業=「未開」状態の部族社会で、人口も希薄。
- + 金銀・有用資源も当初は発見できず
- + 入植者の特徴...「支配」よりも「自立」
- ⇒ 歴史的抵抗の少ない社会
- + 自然的抵抗の少ない土地
- + 欧州の近代産業技術の直接導入
- + 自由経済競争の国土形成
- ⇒ 「精神」が大陸スケールの地域空間の大枠を決した稀有な例
- ... 20世紀の人類が生み出した実験的・記念碑的な社会。

